

世田谷「家のバトン」プロジェクト

～「片付け」から始める家のこれから～

チーム世田谷未来デザイン

担当自治体：世田谷区

■地域課題

空き家にしない、地域をつなぐまちづくり

不動産流通が盛んな世田谷区でも、売る・貸す以前に「家財整理が億劫」「決断が重い」「他人に使われる抵抗感」により“なんとなくそのまま”の空き家（予備軍含む）が生まれる。空き家化後に慌てないためには、居住中からの“家の終活”意識づけと、地域の受け皿づくりを同時に進める必要がある。

抑止の主戦場は「意思決定の手前」

チーム世田谷ミライデザインは世田谷区の既存施策（活用ナビ／地域貢献活用相談窓口）の前段の準備行動（片付け・思い出の昇華・住み開き）をサポートして実効性を底上げを目指します。

空き家対策：住み開きと片付けを通じた段階的なアプローチ（改善版）

Step 0：導入（既存学習機会との接続）



Step 1：家のボタン簡易診断（15分）



Step 2：思い出カタログ作成（90分×2回）



Step 3：プレ片付け（本人主導の仕分け）



Step 4：住み開きトライアル（週末2回～）



Step 5：渡し方の決定（専門家への接続）



モノの整理

家財を「捨てる」ではなく「分ける」

記憶の編集

思い出カタログで価値を再認識

地域との接続

住み開きで納得感を醸成

出口への送客

活用ナビ／相談窓口へ

■世田谷区空家等実態調査について

学生調査員 総数

1 3 8 名

説明会の様子



■参加大学の内訳

- ・駒沢大学：30名
- ・成城大学・大学院：29名
- ・明治大学・大学院：26名
- ・昭和女子大学・大学院：19名
- ・東京都市大学：15名
- ・早稲田大学・大学院：8名
- ・大妻女子大学：6名
- ・芝浦工業大学：5名

■調査の実施体制

- ・チームの人数に応じて各チームへ対象物件を割り振り
- ・調査は2人以上4人以下で行う